

7月26日 第22回 西の池学園 ふれあいまつり



次郎丸太鼓による演奏♪



屋台も大繁盛でした！



佐々木リョウさんによるステージ♪

第22回 西の池学園 ふれあいまつりに参加して

今年もふれあいまつりに参加させて頂きました。去年のように雨が降る事もなく開催されてよかったです。いつも広島ゆかりのアーティストがゲストとして出演され、広島を盛り上げようと頑張っておられるなと思いました。今年も、三次出身の佐々木リョウさん、歌とトークが上手く、カープ選手の出場曲を手掛けてあり、親しみを感ずきました。次郎丸太鼓では、迫力ある音とぼさばさを堪能させて頂きました。一緒に行った孫達は、ゲームにはまって私達の所に戻って来ては、貰った景品を楽しそうに見せてくれました。娘が西の池さんにお世話になっております。実行メンバーとして司会の手伝いで舞台上がっていましたが、何かと役に立てた様でよかったです。最後に花火を見て、来年も参加出来ればと、また楽しみます。

小谷在住 中村好孝

多機能型事業所あさひ

第2回 あさひ地域交流会を開催しました。

6月29日(土) 竹原市の地域の皆さまを対象にあさひ地域交流会を開催しました。日頃お世話になっている地域の皆さまに、楽しんでいただきたいながら「あさひ」のことをもっと知ってもらいたい、との思いから企画した交流会。今回は10名の方に参加いただきました。

午前中は、利用者さんが紙すき作業で作ったはがきを使い、「あさひ」の職員が講師をつとめて絵手紙教室を行いました。その後、あさひの給食を利用者さんや職員と一緒に食べていただき、「あさひ」の活動の紹介をしました。

参加いただいた皆さまからは、「利用者の皆さんがやりがいを持ってお仕事をしていてる姿がとても素敵でした」「またあさひに來たいです」といったうれしい感想をたくさんいただきました。

短い時間でしたが、利用者さんや地域の皆さまの笑顔をたくさん見ることができ、私たち職員も充実した楽しい時間を過ごすことができました。

今後このような機会を設け、地域の皆さまと交流を深めていきたいと思っております。

多機能型事業所あさひ
支援員 小笠原野乃



できあがった作品を手に

グループホーム

休日のサークル活動の取り組み

グループホームでは、これまで一泊旅行や季節ごとの行事の開催、ヘルパーを利用した外出等は行っていました。休日の個々の楽しみ方の支援が課題となっていました。

そこで、入居者の皆さんに休日をもっと楽しんで過ごして頂きたいとの思いで、皆さんに希望を聞いて、フラワーアレンジメントとクッキングのサークル活動を月2回開催することにしました。クッキングサークルでは、一人暮らしや帰省時に家事自分で料理ができるようにと、主に電子レンジを使って簡単に出来る献立から取り組みました。メニューはソーメンと焼シユウマイ。ソーメンをゆで、お肉と野菜を切つてレンジで調理して、盛り付けて、悪戦苦闘でしたが出来上がりは上々、みんなで笑顔でいただきました。

フラワーアレンジメントでは、お花屋さんから講師を招き、ヒマワリやリンドウなど夏の花を活けました。それぞれ個性的なフラワーアレンジメントが出来上がり、講師から絶賛を頂きました。

今後は、グループホームの中での活動に留まることなく、地域で行われているサークル活動やサロンに参加させていただくなど、入居者の社会参加を進めていきたいと思っております。

グループホーム
支援員 竹橋真由美



フラワーアレンジメントの様子

7月26日(金) 第22回ふれあいまつりを開催しました。昨年は西日本豪雨災害により中止となり地域の皆様にご心配をおかけしましたが、西の池学園創立50周年という年に盛大なまつりを開催できたこと、職員一同嬉しく思います。今年も多くのお客様にご来場頂くことができ、大いに盛り上がりました。新店舗のから揚げをはじめ、たこ焼きやスタンプラリーなど、最後まで行列の絶えない賑わいでした。ご協力頂いたボランティアをはじめとする地域の皆様から感謝いたします。

ふれあいまつり実行委員長
西畑 仁希



恒例の花火！

ホームセンターこだま

支援の質の向上を目指して

いつもヘルパーこだまをご利用の皆様、ありがとうございます。お陰様で開所して15年が経ちました。

当初は、専任ヘルパーで構成されていましたが、ヘルパーの需要が増え、特に男性ヘルパーが不足する状態に対応するために、数年前から当法人の入所・通所職員を兼務ヘルパーとして増員しました。それにより、ヘルパーの確保ができた一方で、ヘルパー間の情報共有や支援方法を統一することが大きな課題となってきました。

そこで、ヘルパー一人ひとりが、今行っている業務を的確に出来ているかを認識するためのチェックリストを作成しました。支援内容の把握、ご家族への報告、安全運転や外出準備などの項目に1〜4の自己評価をつけ、振り返りを行います。

これを継続的に行う事で、支援の統一を図り、ヘルパーの支援の質の向上を目指していきたいと思っております。

ホームヘルプサービスこだま
ヘルパー 白石 珠子

